

ドル/円相場のトレード戦略

■ 中長期展望

昨年末は米国の大統領選挙でトランプ氏が勝ったことにより、同氏の大型減税やインフラ投資政策、金融規制の緩和期待などから米景気加速を先取りする形でドルが上昇し、ドル/円は2ヶ月で20%近い大幅な上昇となりました。

【ドル/円 週足】



このドルの上昇は、それまでに積み上がっていたドルショートのカバーが先行し、その後ドル上昇を予想する投機筋によって一段と買い上げられたことによって急進行しました。

しかし、年明け以降は、トランプ新大統領が人民元に対してのドル高をけん制したことや、今後保護貿易主義的な政策を打ち出す懸念などからドルの上値が抑えられる動きとなっています。

これまでトランプ大統領が発信してきた経済政策はドル高促進的なものであることは間違いがなく、発信どおりの政策が実施されるのであれば、ドル高基調は継続されるものと考えます。

ドル上昇を基本シナリオとした場合、リスクもはっきりしており、それはトランプ政権が実際に打ち出す政策が市場を失望させるものであり、米景気に陰りが出てくることであると考えられ、トレードに際しては米景気動向に注意していく必要があるでしょう。

また、保護主義的な貿易政策や外交政策はドル高を抑制する要因となり、マーケットの焦点がこれらの問題に集中したときには一時的なドル安が起きるものの、大きな影響が出てくるには時間がかかるため、トレードをするうえではまだ先の材料といえるでしょう。

ドル/円相場のトレード戦略

いずれにしても、当面のドル/円相場は米国の新政権の動向に左右される展開が続くものと思われる。

■ 短期展望

先週は、トランプ次期米大統領が人民元に対してドルが強すぎるとドル高をけん制したことや、次期政権の保護主義的な通商政策に対する懸念から、ドルは一時112円57銭まで下落しましたが、その後のイエレンFRB議長の追加利上げに前向きな発言が伝えられると114円台まで値を戻す動きとなりました。

市場では新政権への期待感は根強く残っておりドルの下値を支える一方、ドル高けん制発言への懸念などがドルの上値を抑える要因となっています。

今週は、始動し始めた米新政権の動向を見極めたいとの思惑が強く、模様眺めムードが続く可能性が高いように思われ、ポジション調整の動きが先行しドルがやや軟化する動きを想定します。

ドルの上値は115円水準が既に重く、下値に関しては先週の安値112円半ばを下抜けると110円台が視野に入ってきます。